

道徳通信

野々市市立野々市中学校 令和2年 8月24日(月) NO. 3



3週間の夏休みを終え、今日から2学期のスタートです。例年より1週間ほど早く始まりましたが、気持ちと身体を整え、それぞれの目標に向かって、がんばっていきましょう。

考えてみよう！

例年、野々市中学校では、8月6日に行なわれる広島の平和記念式典に、全校生徒を代表して、生徒会役員が参加していましたが、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、参加することができませんでした。しかし、決して何もできないわけではありません。終戦から75年。薄れゆく記憶の中で、折りに触れて、過去に思いを馳せ、「今」を見つめ直してみてください。「今」を生きる私たちにできることは何か、「平和」とは何か。今回の道徳通信では、「平和」に関する話題を紹介します。



～3年生の教科書 付録教材「命見つめて」より～

【話の出だし】

毎年多くの外国人が広島を訪れる。ワールド・フレンドシップ・センター（WFC）を訪れ宿泊する人だけでも、年間二百人をこえることが多い。

国籍も雑多だ。アメリカが大部分だが、ドイツ、スカンジナビア諸国、アフリカ諸国、南米諸国、キューバ、インド、パキスタン、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど。とまりこそしないが、旧ソ連、イタリア、イラン、さらにはパレスチナなどの人々も来た。

これらの人々の共通点は、真面目なこと、金を持たないことで、多くは二、三日とまっていけるが、三、四週間という人たちもいる。なかには三か月、半年もとまっていける人たちもいる。

七、八年前、オランダの老婦人がやってきた。顔には深いしわが刻みこまれ、かみの毛はほとんど真っ白、憂愁という形容がぴったりの老婦人だった。ひざが悪いらしく、歩行が難しそうだった。この老婦人は一週間とまっていた。

WFCのガイドグループの広島大学の学生が三日間もお相手をし、市内の案内をした。彼女は丹念に、ゆっくりと被爆あとを訪ねて回った。特に、広島二中（現在の県立広島観音高等学校）の一年生と教師が被爆した（三百四十三名全員死亡）地に建てられた碑の前では、長時間たずんでいたそうである。

このお話は、広島市出身の平和運動家で、世界平和を願い、世界に対する広島の窓口として WFC を設立した原田東岷氏の出典によるものです。日本との戦争で夫や自己の心身の健康を失い、日本人を憎むことを生きがいにしてきたオランダの老婦人が、被爆地広島を訪れるところから始まり、原爆の被害に遭いながらも、アメリカを許し、粘り強く平和を訴え続けている日本人の姿が描かれます。深い感銘を受け、幸福感に包まれて日本を後にした老婦人の姿から、さまざまことを考えることができます。



2020年6月23日の慰霊の日に行なわれた沖縄全戦没者追悼式で 朗読された「平和の詩」を紹介します。

「あなたがあの時」

沖縄県立首里高校 3年 高良朱香音さん

「懐中電灯を消してください」
一つ、また一つ光が消えていく
真っ暗になったその場所は
まだ昼間だというのに
あまりにも暗い
少し湿った空気を感じながら
私はあの時を想像する
あなたがまだ一人で歩けなかったあの時
あなたの兄は人を殺すことを習った
あなたの姉は学校へ行けなくなった

あなたが走れるようになったあの時
あなたが駆け回るはずだった野原は
真っ赤っか 友だちなんて誰もいない

あなたが青春を奪われたあの時
あなたはもうボロボロ
家族もいない 食べ物もない
ただ真っ暗なこの壕の中で
あなたの見た光は、幻となって消えた。

「はい、ではつけていいですよ」
一つ、また一つ光が増えていく
照らされたその場所は
もう真っ暗ではないというのに
あまりにも暗い
体中にじんわりとかく汗を感じながら
私はあの時を想像する

あなたが声を上げて泣かなかったあの時
あなたの母はあなたを殺さずに済んだ
あなたは生き延びた

(「琉球新報」 Web News より)

あなたが少女に白旗を持たせたあの時
彼女は真っ直ぐに旗を掲げた
少女は助かった

ありがとう

あなたがあの時
あの人を助けてくれたおかげで
私は今 ここにいる

あなたがあの時
前を見続けてくれたおかげで
この島は今 ここにある

あなたがあの時
勇気を振り絞って語ってくれたおかげで
私たちは 知った
永遠に解かれることのない戦争の呪いを
決して失われてはいけない平和の尊さを

ありがとう

「頭、気をつけてね」

外の光が私を包む
真っ暗闇のあの中で
あなたが見つめた希望の光
私は消さない 消させない
梅雨晴れの午後の光を感じながら
私は平和な世界を創造する

あなたがあの時
私を見つめたまっすぐな視線
未来に向けた穏やかな横顔を
私は忘れない
平和を求める仲間として